

令和6年度 学校評価（保護者用） 集計結果

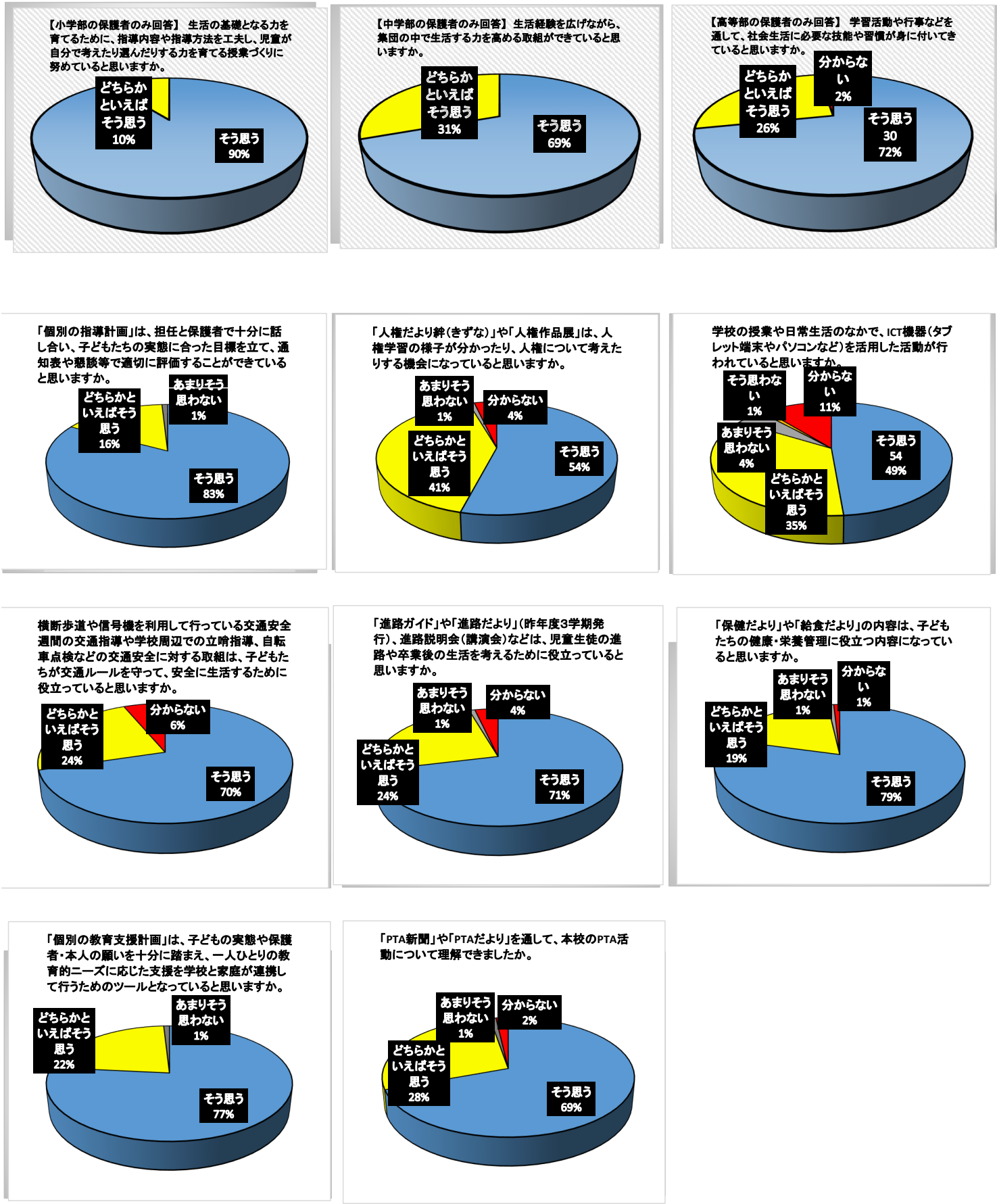
回収率 小学部90.9% (40/44) 中学部93.5% (29/31) 高等部97.7% (42/43) 全体94.1% (111/118)

【 A:そう思う B:どちらかというと思う C:あまりそう思わない D:そう思わない N:分からない 】

番号	評価項目	小学部						中学部						高等部						全体					
		A	B	C	D	N	合計	A	B	C	D	N	合計	A	B	C	D	N	合計	A	B	C	D	N	合計
1	【小学部の保護者のみ回答】 生活の基礎となる力を育てるために、指導内容や指導方法を工夫し、児童が自分で考えたり選んだりする力を育てる授業づくりに努めていると思いますか。	36	4				40													36	4	0	0	0	40
		90%	10%	0%	0%	0%														90%	10%	0%	0%	0%	
1	【中学部の保護者のみ回答】 生活経験を広げながら、集団の中で生活する力を高める取組ができていていると思いますか。							20	9				29							20	9	0	0	0	29
								69%	31%	0%	0%	0%								69%	31%	0%	0%	0%	
1	【高等部の保護者のみ回答】 学習活動や行事などを通して、社会生活に必要な技能や習慣が身に付いてきていると思いますか。													30	11			1	42	30	11	0	0	1	42
														72%	26%	0%	0%	2%		72%	26%	0%	0%	2%	
2	「個別の指導計画」は、担任と保護者で十分に話し合い、子どもたちの実態に合った目標を立て、通知表や懇談等で適切に評価することができていると思いますか。	36	4				40	25	4				29	31	10	1			42	92	18	1	0	0	111
		90%	10%	0%	0%	0%		86%	14%	0%	0%	0%		74%	24%	2%	0%	0%		83%	16%	1%	0%	0%	
3	「人権だより絆（きずな）」や「人権作品展」は、人権学習の様子が分かったり、人権について考えたりする機会になっていると思いますか。	27	12			1	40	12	15	1		1	29	21	19			2	42	60	46	1	0	4	111
		68%	30%	0%	0%	3%		42%	52%	3%	0%	3%		50%	45%	0%	0%	5%		54%	41%	1%	0%	4%	
4	学校の授業や日常生活のなかで、ICT機器（タブレット端末やパソコンなど）を活用した活動が行われていると思いますか。	21	13	1	1	4	40	15	9	2		3	29	18	17	2		5	42	54	39	5	1	12	111
		53%	33%	2%	2%	10%		52%	31%	7%	0%	10%		43%	40%	5%	0%	12%		49%	35%	5%	1%	10%	
5	横断歩道や信号機を利用して行っている交通安全週間の交通指導や学校周辺での立哨指導、自転車点検などの交通安全に対する取組は、子どもたちが交通ルールを守って、安全に生活するために役立っていると思いますか。	31	7			2	40	19	9			1	29	28	10			4	42	78	26	0	0	7	111
		78%	18%	0%	0%	4%		66%	31%	0%	0%	3%		67%	24%	0%	0%	9%		70%	24%	0%	0%	6%	
6	「進路ガイド」や「進路だより」（昨年度3学期発行）、進路説明会（講演会）などは、児童生徒の進路や卒業後の生活を考えるために役立っていると思いますか。	30	7			3	40	18	10			1	29	31	10	1			42	79	27	1	0	4	111
		75%	18%	0%	0%	7%		63%	34%	0%	0%	3%		74%	24%	2%	0%	0%		71%	24%	1%	0%	4%	
7	「保健だより」や「給食だより」の内容は、子どもたちの健康・栄養管理に役立つ内容になっていると思いますか。	36	4				40	22	7				29	30	10	1		1	42	88	21	1	0	1	111
		90%	10%	0%	0%	0%		76%	24%	0%	0%	0%		72%	24%	2%	0%	2%		79%	19%	1%	0%	1%	
8	「個別の教育支援計画」は、子どもの実態や保護者・本人の願いを十分に踏まえ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を学校と家庭が連携して行うためのツールとなっていると思いますか。	35	5				40	21	8				29	29	12	1			42	85	25	1	0	0	111
		88%	12%	0%	0%	0%		72%	28%	0%	0%	0%		69%	29%	2%	0%	0%		77%	22%	1%	0%	0%	
9	「PTA新聞」や「PTAだより」を通して、本校のPTA活動について理解できましたか。	30	9			1	40	20	9				29	27	13	1		1	42	77	31	1	0	2	111
		75%	22%	0%	0%	3%		69%	31%	0%	0%	0%		64%	31%	2%	0%	2%		69%	28%	1%	0%	2%	

学校評価（保護者用） 集計結果
OA「できている」とB「どちらかというときでている」評価を合わせると12項目中11項目で90%以上でした。残り1項目も「分からない」を除けば、90%以上はA「できている」、B「どちらかというときでている」評価で高い評価をいただきました。
今後とも保護者のみなさんから高い評価をいただけるように精進してまいります。

令和6年度 学校評価（保護者用） 集計結果

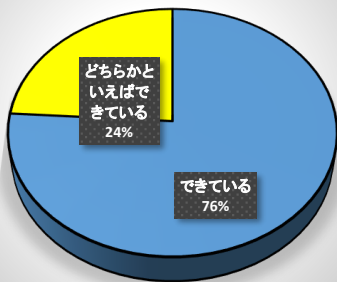


回収率 100% (小職員 25・中職員 18・高職員 26) 全体数 69
【 A:そう思う B:どちらかというと思う C:あまりそう思わない D:そう思わない 】

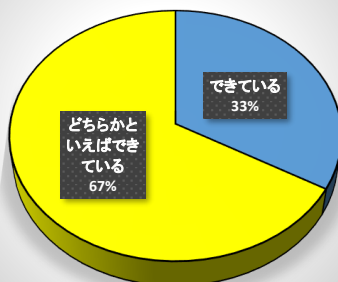
部	評価内容(今年度努力点)	小学部					中学部					高等部					全 体				
		A	B	C	D	合計	A	B	C	D	合計	A	B	C	D	合計	A	B	C	D	合計
小	6年間を見通した系統的な指導を行うため、各教科や単元等の内容やねらいを明確にした年間指導計画の作成に取り組む。	19	6			25											19	6	0	0	25
		76%	24%	0%	0%												76%	24%	0%	0%	
中	実態差の大きな生徒が参加する授業での、目標設定や学習活動の工夫について、検討し実践する。						6	12			18						6	12	0	0	18
							33%	67%	0%	0%							33%	67%	0%	0%	
高	あいさつ運動やボランティア活動などの機会を設定して、自己有用感を高めるように努める。											16	10			26	16	10	0	0	26
												62%	38%	0%	0%		62%	38%	0%	0%	
校務分掌	評価内容(本年度の努力点)	小学部					中学部					高等部					全 体				
		A	B	C	D	合計	A	B	C	D	合計	A	B	C	D	合計	A	B	C	D	合計
教務部	年間学習指導計画を円滑に作成できるように、様式を変えたり作成手順等を部会で周知したりする。	23	2			25	9	9			18	22	4			26	54	15	0	0	69
		92%	8%	0%	0%		50%	50%	0%	0%		85%	15%	0%	0%		78%	22%	0%	0%	
人権・同和教育部	児童生徒が実態に応じた人権学習に取り組むことができるように、資料等を用意し、学習内容について相談・支援に努める。	22	3			25	8	10			18	17	9			26	47	22	0	0	69
		88%	12%	0%	0%		44%	56%	0%	0%		65%	35%	0%	0%		68%	32%	0%	0%	
研究部	各部での校内研究や研究授業は、「深い学び」の実現に向けて児童生徒への指導を見つめ直したり、授業改善の気付きを得たりする機会となっている。	23	2			25	7	11			18	18	8			26	48	21	0	0	69
		92%	8%	0%	0%		39%	61%	0%	0%		69%	31%	0%	0%		70%	30%	0%	0%	
メディア教育部	1 児童生徒用・教員用1人1台タブレット端末のアプリの精選を行い、必要なアプリをインストールする。	23	2			25	15	3			18	24	1		1	26	62	6	0	1	69
		92%	8%	0%	0%		83%	17%	0%	0%		92%	4%	0%	4%		90%	9%	0%	1%	
	2 本校の概要や学習活動の紹介をするホームページの更新、放送朝礼の企画と運営、学校行事などの視覚支援機器の設置、配信を行う。	24	1			25	18				18	25	1			26	67	2	0	0	69
		96%	4%	0%	0%		100%	0%	0%	0%		96%	4%	0%	0%		97%	3%	0%	0%	
生徒指導部	児童生徒が、あいさつ運動以外でも自発的にあいさつができるように努める。	18	7			25	5	12	1		18	14	11	1		26	37	30	2	0	69
		72%	28%	0%	0%		28%	67%	5%	0%		54%	42%	4%	0%		54%	43%	3%	0%	
進路指導部	実態に応じた進路支援につながるように、進路行事(実習や職場体験、事業所見学など)を計画的に実施したり、「進路ガイド」や「進路だより」を発行したりする。	23	2			25	16	2			18	25	1			26	64	5	0	0	69
		92%	8%	0%	0%		89%	11%	0%	0%		96%	4%	0%	0%		93%	7%	0%	0%	
保健部	1.シミュレーション研修や水上安全講習会は、緊急時や事故の対応に備えるものになっている。	24	1			25	16	2			18	23	3			26	63	6	0	0	69
		96%	4%	0%	0%		89%	11%	0%	0%		88%	12%	0%	0%		91%	9%	0%	0%	
	2 保健・給食目標に沿った放送、掲示、たより等で健康や食・栄養の情報発信に努めている。	23	2			25	14	4			18	23	3			26	60	9	0	0	69
		92%	8%	0%	0%		78%	22%	0%	0%		88%	12%	0%	0%		87%	13%	0%	0%	
教育支援部	1 「個別的教育支援計画」について、記載内容がより充実したものになるよう、年度当初の研修や部会等で作成手順や作成上の配慮事項等について説明、周知する。	25				25	15	3			18	18	8			26	58	11	0	0	69
		100%	0%	0%	0%		83%	17%	0%	0%		69%	31%	0%	0%		84%	16%	0%	0%	
	2 特別支援学校のセンター的機能の役割を踏まえて、地域の学校園等の特別支援教育に携わる教職員や関係機関に対して、特別支援教育講演会や連携協議会等を通じて幅広く新しい情報提供を行う。	22	3			25	13	5			18	18	8			26	53	16	0	0	69
		88%	12%	0%	0%		72%	28%	0%	0%		69%	31%	0%	0%		77%	23%	0%	0%	
総務部	車椅子や装具を使用している児童生徒の避難方法について共通理解を図り、避難訓練では、状況に応じた避難行動ができるようにする。	24	1			25	11	7			18	19	7			26	54	15	0	0	69
		96%	4%	0%	0%		61%	39%	0%	0%		73%	27%	0%	0%		78%	22%	0%	0%	

学校評価(教職員用) 集計結果
○全部の項目でA「できている」、B「どちらかといえできてきている」評価を合わせると ほぼ100%でした。
○メディア教育部、進路指導部、保健指導1のA評価「できている」が90%以上で特に高い評価でした。

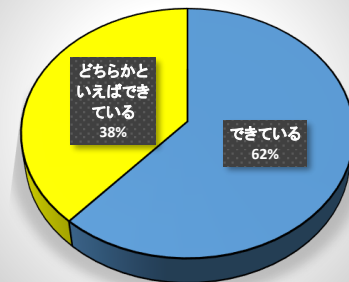
小学部：6年間を見通した系統的な指導を行うため、各教科や単元等の内容やねらいを明確にした年間指導計画の作成に取り組む。



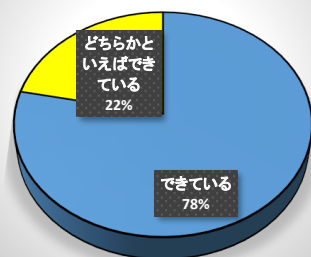
中学部：実態差の大きな生徒が参加する授業での、目標設定や学習活動の工夫について、検討し実践する。



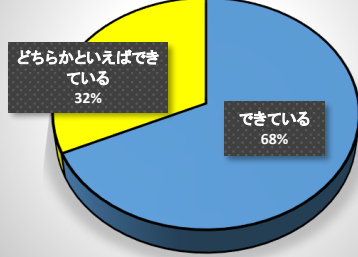
高等部：あいさつ運動やボランティア活動などの機会を設定して、自己有用感を高めるように努める。



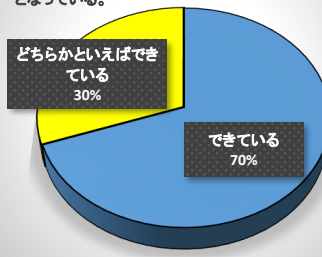
教務部：年間学習指導計画の作成が円滑にできるように、様式を整えたり作成手順等を部会で周知したりする。



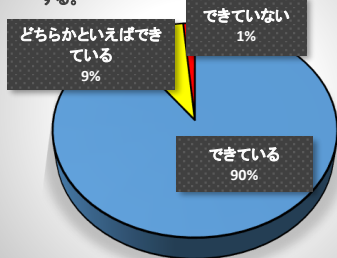
人権同和教育部：児童・生徒が実態に応じた人権学習に取り組むことができるように、資料等を用意し、学習内容についても相談・支援に努める。



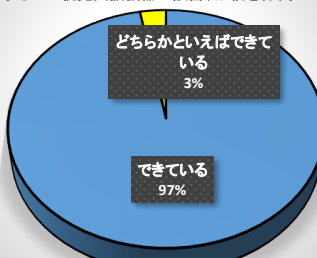
研究部：各部での校内研究や研究授業は「深い学び」の実現に向けて児童生徒への指導を見つめ直したり、授業改善の気付きを得たりする機会となっている。



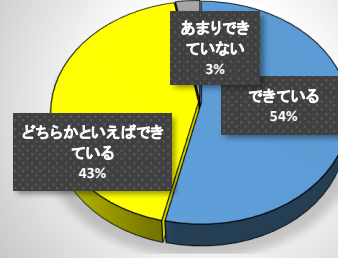
メディア：1.児童生徒用・教員用1人1台タブレット端末の精選を行い、必要なアプリをインストールする。



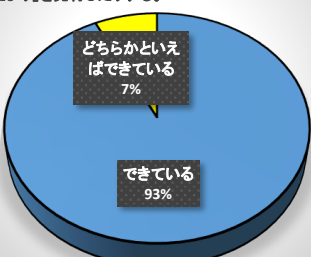
メディア：2.本校の概要や学習活動の紹介をするホームページの更新、放送朝礼の企画と運営、学校行事などの視覚支援機器の設置、配信を行う。



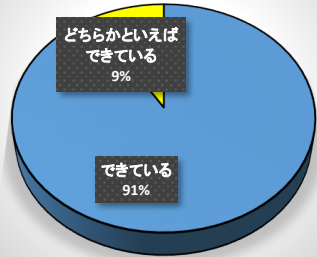
生徒指導：児童生徒が、あいさつ運動以外でも自発的にあいさつができるように努める。



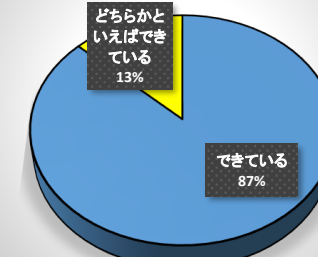
進路指導部：実態に応じた進路支援につながるように、進路行事(実習や職場体験、事業所見学など)を計画的に実施したり「進路ガイド」や「進路だより」を発行したりする。



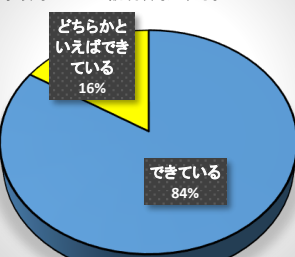
保健指導部：1.シミュレーション研修や水上安全講習会は、緊急時や事故の対応に備えるものになっている。



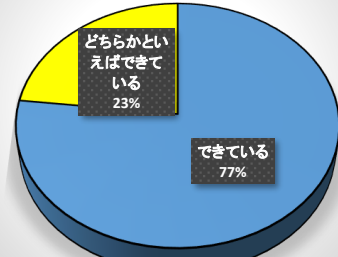
保健指導部：2.保健・給食目標に沿った放送、掲示、たより等で健康や食・栄養の情報発信に努めている。



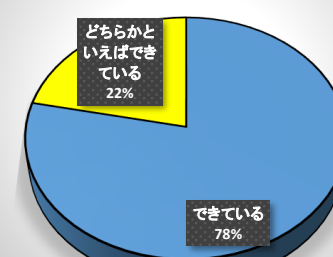
教育支援部：1.「個別的教育支援計画」について、記載内容がより充実したものになるよう、年度当初の研修や部会等で作成手順や作成上の配慮事項等について説明、周知する。



教育支援部：2.特別支援学校のセンター的機能の役割を踏まえて、地域の学校園等の特別支援教育に携わる教職員や関係機関に対して、特別支援教育講演会や連携協議会等を通じて幅広く新しい情報提供を行う。



総務部：車椅子や装具を使用している児童生徒の避難方法について共通理解を図り、避難訓練では、状況に応じた避難行動ができるようにする。



	年度当初		年度末	
学校	重点目標	目標達成の具体的方策	年度末評価	評価
学校全体	○自ら考え、行動する児童生徒の育成 課題解決に向けて自ら思考し判断する力や、自己選択、自己決定、自己表明する力を育成する。	・授業をはじめ学校生活において、思考したり学んだことを生活に生かしたりするための場面設定を行う。 ・研究テーマである「深い学び」と関連付け、実践をもとに検証する。	本校研究とも関連付けながら取り組むことができた。研究授業では、児童生徒の選択場面を工夫したり、思考を促す問いかけをしたりするなど、教師の工夫した取組により児童生徒の変容が見られた。今後、定着やさらなる深化を図る必要があるが、一定の成果は見られたと感じている。	A
学部	重点目標	目標達成の具体的方策	年度末評価	評価
小学部	○6年間の系統性を考慮した年間指導計画を検討する。	・6年間を見通した系統的な指導を行うため、各教科や単元等の内容やねらいを明確にした年間指導計画の作成に取り組む。	今年度は音楽科の指導内容を中心に取り組んだ。系統性を考慮しながら各活動で取扱う曲を、各学年3曲ずつ選曲して一覧表を作成した。また、年度末に取扱った曲以外に楽器、リズム等を明記することで学びの履歴として、6年間を見通した系統性のある指導に反映できるようにした。一覧表を作成する過程で、指導内容や配慮事項等について共通理解を図ることもできた。	B
中学部	○実態差の大きな生徒が参加する授業での、目標設定や学習活動の工夫について実践・検討する。	・研究授業を行う。 ・生徒個々に「卒業までに身に付けてほしい内容」を選定し、個別の指導計画・年間学習指導計画、授業に反映させる。 ・個別の指導計画を作成する際に、生徒の目標同士を比べながら検討する。	研究授業では、生徒の実態や学習活動に応じて、効果的なグループを編成したり、グループ別の学習を設定したりするなど実態差に対応する支援や工夫を行うことができた。また、学習習得度確認表をツールとして、生徒一人ひとりの「卒業までに身に付けてほしい内容」を学年で話し合う過程を通して、目標設定や学習活動などに反映させることができた。	B
高等部	○ボランティア活動などの機会を設定し、社会につながり地域に貢献する意識を育てる。	・生徒会活動の一環として、毎月20日の朝、正門前で交通安全の呼びかけを行う。 ・5月と11月にJR観音寺駅の花壇の植替え作業を行う。(農園班) ・「チャレンジ!グリーン活動」(香川県教育委員会)に参加する。(紙工班・生徒会) 上記のほか、生徒からアイデアを募集し、生徒の主体的な取組につながるよう支援し、次年度以降も継続できる活動となるよう整備する。	生徒会活動での交通安全の呼びかけは今年度行うことができなかったが、あいさつ運動は定期的に行うことができた。JR観音寺駅の花壇の植替え作業はしっかりと行うことができ、四国「鉄道の日」の四国運輸局長表彰を受賞させていただいた。また、今回「チャレンジ!グリーン活動」には参加しなかったが、香川ビルメンテナンス協会による清掃の出前授業を行ってもらい、清掃についての知識を高めるとともに、学んだことを職業の時間を利用して実践することで校内の美化に努めることができた。	B
	年度当初		年度末	
校務部	努力目標	目標達成の具体的方策	年度末評価	評価
教務部	年間学習指導計画を円滑に作成することができるように、様式や作成手順(スケジュール)等を整える。	・各部の実状に応じて、合わせた指導の中で取り扱われる教科を明記した様式を整える。 ・効率よく作成できるように、学期ごとにねらいや指導内容等を確認したり、年度末に年間指導計画の試案を作成したりするなど、手順を調整し作成手順表を作成する。 ・作成手順の詳細は、部会を通じて適宜周知することで、円滑に作成できるようにする。 ・系統性のある計画を作成できるよう教育課程係を中心に校務部会で情報共有するとともに、各部の年間学習指導計画をタブレット端末やPCで自由に閲覧できるようにする。	・各部の実情に応じて予定や計画どおり円滑に作成することができた。次年度に向けて、小学部では、各教科等を合わせた指導で取り扱う教科ごとにねらい等を記載できるようにすることで、教科の目標や内容の設定に結び付くようにしていく。中学部は、フォントを統一した様式にし、より見やすくなるように改訂した。高等部は、年度初めの業務負担の軽減と計画の系統性を狙い、年度終わりの年間指導計画の作成を、専科中心に進めていく。	B
人権・同和教育部	各部の児童生徒の実態に応じた人権学習を推進する。	・学期末に人権だよりを発行し、学習活動の様子やトピックスを伝える。できるだけ、児童様子の活動写真を掲載する。 ・年3回の人権学習週間を設け、1・3学期は指導略案を作成して、各クラスで児童生徒の実態に応じた授業を行う。2学期は全校で人権作品作りに取り組む。具体的な方策の一つとして、授業内容を考える際、過去の指導略案や資料等を参考できるように職員室の棚に置き、全教職員が閲覧できるようにする。	・人権だよりには、様々な学年の人権学習の様子を掲載したり、学習発表会では、人権展で作品展示したり発信ができた。 ・書籍や映像資料は限られているが、各クラスで創意工夫して、人権学習に取り組んでもらえた。 ・次年度は、様々な情報をタイムリーに先生方と共有し、人権感覚が豊かになるように努めたい。	B

研究部	グランドデザインや各部の指導目標を踏まえ、児童生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばす指導力や専門性を高めるために、校内研究を推進する。	・グランドデザインの実現につながる全校テーマと各部毎の研究テーマのもと、各部で研究授業、研究討議等を中心とした校内研究を進める。まとめとして年度末に研究集録を作成する。 ・発達検査等によるアセスメントを実施し、指導計画作成の資料とする。 ・他の学級や学部への授業を自由に参観し合う相互参観週間を設け、相互理解や学部間のつながりを深めて系統的な指導に生かす。	・今年度も各部で研究授業を中心に、全員で研究を進めることができた。研究集録については、2年間の取組をまとめることになっている。初めてのことで、検討事項があれば来年度以降に向けて検討していきたい。 ・相互参観については、職員の年休等によって空き時間がうまくとれず、参観できなかった人が多かった。来年度以降は「1コマ以上」の縛りをなくし、10分間だけでも参観してもらおうと呼び掛ける。	B
	教職員の資質や専門性の向上に役立つよう、他分掌と連携して研修を計画・実施する。	・専門知識や指導方法、教育的な視点を学ぶ機会として、スキルアップ研修会を実施する。 ・各種研修会の案内や書籍紹介等、特別支援教育についての最新情報等の周知を行う。	・講師を担当してくださった先生方を始め、他分掌の先生方のご協力のおかげで、スキルアップ研修会には好評をいただいている。 ・書籍、研修会等、適切に周知を行うことができた。香川大学教育学部附属特別支援学校の公開授業について、初任者2名が参加した。相互公開授業については、本校への参観は申し込みがなかったが、他校の授業を2名が参観した。	B
メディア教育部	児童生徒用・教員用1人1台タブレット端末のアプリの精選を行い、必要なアプリをインストールする。	・有料アプリの購入希望調査を取り、必要なアプリをインストールする。 ・無料アプリの購入申請があれば、随時インストールする。	タブレット端末の一括管理を行っている「Jamf」に不具合があるときを除き、児童生徒用・教員用1人1台タブレット端末に必要なアプリをインストールすることができた。	B
	本校の概要や学習活動の紹介をするホームページの更新、放送朝礼の企画と運営、学校行事などの視覚支援機器の設営、配信を行う。	・各部の行事を中心とした、ホームページを適時更新するとともに、閲覧の啓発を行う。 ・本校の教育活動が端的に伝わるよう、学校紹介VTRを作成・更新する。 ・児童生徒が活動する様子を動画にまとめた放送朝礼を定期的に行う。 ・式典や学校行事などの視覚支援教材の作成や視聴覚機器の設営、配信の計画を行う。	ホームページについては、メディア教育部のホームページ担当者が行事・学習活動の様子をタイムリーに更新することができている。放送朝礼や学校行事の配信については、積み重ねてきた経験を活かし、今後も継続して行っていきたい。	A
生徒指導部	あいさつ運動以外でも日常において自発的にあいさつができるように引き続き取り組む。	・原則、毎月第1・3月曜日をさわやかあいさつの日とし、実態に応じた挨拶の方法を身に付ける機会を設定する。 ・生徒会役員を中心に、生徒会活動を活性化し、明るく楽しく元気よく学校生活を送ることができるよう役員改選。全校集会・放送、さわやかあいさつ運動等を行う。	中学部・高等部の生徒会役員によるさわやかあいさつ運動を月2回ずつ実施することができた。自発的に挨拶ができるように引き続き積極的な挨拶励行の指導を継続していく必要がある。	B
	児童・生徒が安心、安全に過ごせるように課題未然防止教育に取り組む。	交通安全教室、携帯スマホ安全教室、消費生活講座、自転車安全教室、薬物乱用防止教室などの各種教室を適切な時期に行う。	計画していた各教室を実施することができた。外部からの講師の先生方の専門的なご指導をして頂き、安全指導に結びつけることができた。	A
進路指導部	実態に応じた進路支援につながるよう進路情報を提供する。	・[改訂版]進路ガイドを発行し、活用の機会を設ける。 ・進路に関する説明会や講演会を実施し、卒業後の生活について考える機会を設ける。 ・職員対象の事業所見学会や研修会を実施し、進路状況や進路情報を提供する。	・「進路ガイド」を発行し、懇談や研修で活用していただけた。卒業後の生活を考える参考資料として、今後も活用する機会を提案したい。 ・職員対象の「事業所見学会」や自立支援協議会主催の「三観福祉の居場所説明会」などを開催し、情報収集や相談する機会を提供することができた。 ・職員対象の研修等を通じて情報提供をしているが、その活用はそれぞれの意識によるところが大きい。今後も積極的に進路情報を提供する中で共通した認識をもてるようにしていきたい。	B

保健部	感染症の拡大や事故を未然に防ぐことができるように、保健に関する啓発活動を行ったり、緊急時の対応に備えるための職員の研修を計画・実施したりする。	・手洗いや換気等の感染症対策に関する啓発と、感染状況の情報を提供する。 ・心肺蘇生法やAEDの使用手順等の講習をしたり、各部で救急体制シミュレーションを行ったりする。	・県内の感染症流行情報を保健だよりや保健室前掲示板、日報等で積極的に周知することができた。 ・心肺蘇生法はプールでの実施が久しぶりにでき、約8割の教員が参加し、事後アンケート結果からも開催の効果が感じられた。	A
	健康で衛生的な日常生活を送るために、健康の保持増進に関する保健教育を推進する。	・保健目標や給食目標、それに沿った一ロメモ等を放送する。 ・児童生徒の実態に合わせたブラッシング指導や性に関する指導等を行ったり、教材の紹介やデータの管理を行ったりする。	・保健・給食の年間計画にある目標に基づき、中学・高等部の委員会の生徒の力を借りて日々放送ができた。 ・全学部・クラスでブラッシング指導を行うことができた。性に関する指導教材をまとめ紹介することで、教職員が活用しやすくなった。	A
教育支援部	個別の教育支援計画が、児童生徒の将来の姿をイメージして、家庭や関係機関と連携しながら支援するためのツールとなるよう、記載内容の充実を図るとともに具体的な活用の流れを整備する。	・個別の教育支援計画の記載内容について手引きや研修等を通して共通理解を図り、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援ができるようにする。 ・関係機関や保護者、担任等が、サービス担当者会議など関係機関との連携の場にて、個別の教育支援計画やサポートファイル「かけはし」をもとに学校の取組や連携体制を確認し、共通理解のもと指導支援が進められるよう、具体的な活用の方法を示す。	・4月の職員研修の資料の改善を図り、作成手順とともに主に「目標」「支援方法及び内容」の欄を記入する上での配慮事項等について説明・周知することができた。 ・サービス担当者会議における「個別の教育支援計画」の活用方法について、7月の職員会議で具体的な活用の方法を示すことができた。	B
	特別支援学校のセンター的機能の役割を踏まえて、地域の学校園の特別支援教育に携わる職員や在籍する児童生徒の保護者、関係機関に対して、特別支援教育に関する幅広く新しい情報提供及び相談支援等を行う。	・職員一人ひとりがセンター的機能の役割の担い手であるという意識や意欲をもって地域の学校園への連携訪問や相談支援が行えるよう、校内研修の内容や方法を工夫する。 ・地域の連携協議会等に参加し、児童生徒に適切な教育的手だてを提供するために関係機関の連携・協力を得られるよう、情報提供や意見交換等を行う。 ・ホームページやリーフレットの配付等を通じて、本校の取組や特別支援教育講演会、教育相談会の周知に努める。	・「すっさくセミナー」の講師や内容を充実したものにすることができた。 ・地域の連携協議等に参加し、関係機関と情報共有や意見交換を行うことで、ネットワークや協力体制を確認することができた。 ・特別支援教育講演会や教育相談会等について、ホームページで情報を発信することができた。	B
総務部	PTA組織が各行事をスムーズに実施できるよう役割分担をし、互いに協力してできるように支援する。	PTA活動の内容、実施方法を検討して見直し、リーダーや本部役員の役割分担を明確にしたり、総務の職員全員が行事を分担したりして協力する。	・今年度は10校PTAの事務局であったが、PTA本部役員を中心に多くの会員の参加を得て、運営委員会、全体会ともにスムーズに運営することができた。座談会は大雨のため中止になったが、環境委員会活動と5年ぶりに進路先見学を実施することができた。	A
	児童生徒の避難体制及び避難経路の確認・徹底を図る。	車椅子や装具を使用している児童生徒の避難方法について共通理解を図ったり、避難訓練では、より実践的な設定をしたりし、状況に応じた避難行動ができるようにする。	・車椅子や装具を使用している児童生徒がエレベーターを使用せずに避難する訓練を行い、共通理解を得る場を設けることができた。2学期には中・高等部が作業学習の時間に訓練を行い、学級学年グループでない場合の避難経路、避難方法について確認し、同時に放送機器が使用できない場合を想定して、職員の連絡の取り方、避難誘導の仕方を確認し、訓練することができた。	A

学校評議員会での学校評議員のみなさんの意見

- すべての部において組織的・機動的に運営され、児童生徒の実態に応じた学校づくりが展開されていると思います。
- ICT(情報通信技術)の適切な活用は、もはや学校づくりに欠かせないものであることを改めて認識しました。災害やパンデミックなどの発生に際しても多くのメリットを生むものであると考えます。
- 保護者用と教職員用では、評価項目と評価内容(努力点)という違いがあるものの、どちらも各項目・各内容で A 評価と B 評価を合わせるとほぼ 100%に達している結果となっており、高く評価できると思います。
また、保護者用の回収率が小学部、中学部、高等部のいずれも 90%以上であることは、集計結果と同等以上に高く評価できる点であると考えます。
- 各種「～たより」については、どれも紙面に工夫があり、児童生徒の様子が分かりやすく伝わってくる点に好感を持ちました。
- 保護者用の評価で、昨年は D「そう思わない」の評価がいくつか見られたが今年は 0 になっており、C「あまりそう思わない」評価も少数である点は評価されるべき点だと思います。

～ その他 ～

学校評議員の方々から「ICTの活用、DXの推進について」「デジタル教科書について」「働き方改革について」「今後の障害福祉サービスについて」の質問やご意見があり、意見交換を行いました。